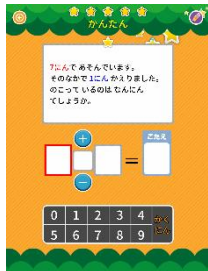
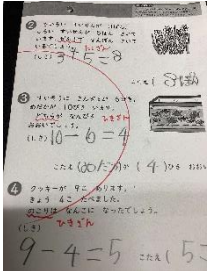


教材・支援機器活用実践事例【ICT】

苦手な問題に進んで取り組めるようにするための ICT 活用

「たし算とひき算」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・小学部 4 年
	障がい名等	知的障がい（自閉症）
	子どもの実態 （学習上又は生活上の困難さ等）	・視覚的な情報（手順書や写真カード）や周りの人の様子から状況を理解して行動することができる。語彙力が少なく、物や人の名前を聞いてもなかなか覚えられない。何か伝えたいときは片言で言う。困った時は「え〜」、何か要求があるときは指差ししながら「こっち。」と言う。間違いたくない気持ちから新しい学習や苦手な文章問題には抵抗を示す。
授業について （教材・教具を使用した授業や指導場面）	教科名等	算数（個別学習）
	単元(題材)名	単元名「たし算とひき算」
	単元(題材)の概要	・合わせた数や増えた後の数を求める時はたし算、残りの数や数のちがいを求める時はひき算と、それぞれを使う場面を理解できるようにする。 ・計算問題に進んで取り組む。
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	・タブレット端末 ・教科書 ・学習プリント  
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ・タブレットを活用することで苦手な文章問題や計算問題に進んで取り組めるようにする。 〈工夫点〉 ・教科書で既習してからアプリを活用することで、自分のペースで問題を解くことや、力試しができるようにした。
	材料・作成方法等	・タブレット端末 ・アプリ（小学校1年生算数、小学校2年生算数、ぐーびーとかずあそびなど）
子どもの変容や評価		・アプリの活用により、教科書やプリントでの学習の時よりも文章をすらすら読み、たし算かひき算か自分で考えて解答できるようになった。また、間違えても気持ちが不安定にならずにやり直せるようになった。算数への苦手意識が減り、自分から次のレベルの計算問題に取り組むようになった。 